丹波市人権・同和教育協議会
人権ネットワーク たんば
第44号

発　行　丹波市人権・同和教育協議会
〒669-3309
事務局　丹波市柏原町柏原443
TEL・FAX 0795-72-2770
e-mail jinken@tambashi-doukyou.jp

第66回 兵庫県人権教育研究大会

丹波地区大会

7月27日（土）丹波篠山市立四季の森生涯学習センター等を会場に行われ、丹波市からは８人の報告がありました。以下の通りです。

	分科会名	報告者	所　属
1	人権の確立をめざす学校・園・所づくり	佐野　聡	和田小学校
2	人権感覚の素地を培う保育・教育	石井ますみ	認定こども園あいいくの丘
4	進路・学力保障	井上　淳	和田中学校
5	障がいのある人と人権	代表 義積美由紀	おやこあんさんぶる ピノキオ
7	男女の共生と人権	堂本　祥子	丹波市人権啓発センター
8	福祉と人権	代表 竹安　恵	若者支援ネットワークえん
10	いじめ・不登校	荒木　真也	南小学校
13	PTA活動と人権	高階　省悟	山南中学校PTA

中央大会（豊岡市）

9月29日（日）豊岡市民会館及び豊岡南中学校を会場に行われ、丹波市からは42人が参加しました。報告は丹波地区大会より選出された第２分科会「人権感覚の素地を培う保育・教育」で認定こども園あいいくの丘の石井ますみさん、第７分科会「男女の共生と人権」で丹波市人権啓発センターの堂本祥子さんの２人にお世話になりました。

参加者の感想

● 小・中・高の3本の実践発表に自分自身を重ね、進路・学力保障の取組は、生徒一人ひとりの未来を切り拓くための大切な取組であることと、学校が人権教育の一部分を担い、生徒の成長とともに、それぞれの時期に学校でつけていくべき力があるということを考えました。

子どもたちが安心して生活できる「居場所づくり」を目指し、一人ひとりが胸を張って自分の進路を切り拓いていけるよう今後も頑張りたいと思います。

● 全体会での「はちぶせの里」管理者の中野さんの報告を聞いて、高齢者を介護する方、介護される方にも人権があり、施設側が社会との接点を意図的につくり出し、地域でともに生活することが共生社会の実現につながることが分かりました。分科会では、子どもたち同士が学び合い、認め合い、互いの人間関係を結んでいくことこそが、いじめ、不登校をなくす有効な手立てであり、またそれが教師の責務であることを教えていただいた気がします。

社会教育研修会（合同部会A）　演題 心豊かなふれあいを求めて ～人権感覚を見つめて～　講師：西脇市教育委員会人権教育課 人権教育指導員 大東 太郎さん

近年、少子高齢化をはじめ、ライフスタイルの多様化や雇用形態の変化など、さまざまな要因が重なり社会から孤立する人が増えました。また、幼児や老人の虐待など色々な社会問題が起きています。そんな生きにくい時代になりつつある中で、人権の話というと堅い話になってちょっと敬遠されがちです。でもこういう学習会の時こそ心にゆとりをもち「自分の人権感覚はどうだろう」と自分を見つめ直す機会にしてほしいと思います。なかなか心にゆとりを持つのは難しいですが、少しリラックスしたり笑ったりすることが必要です。例えばサラリーマン川柳をご存知ですか?くすっと笑えます。これも共感できるよいアイテムだと思います。家庭や近所の方と話題にして笑い合える時間、ふれあう時間が作れるといいですね。

人は心にゆとりを持ち相手を受け入れて共感していくことが大事です。人権を考えるときに、片寄った思いこみや偏見、先入観をなくさなければなりません。また、丹波市でも外国籍の方が増えてきています。国籍を問わず、さまざまな人とふれあう中では文化の違いを認めることも大事です。普段から意識して生活することが大切であると思います。それと、人は生まれてから老いていく間一人では生きていけません。やはり家族があっての自分であることに感謝し心豊かな人生を歩んでほしいと思います。

私たち一人ひとりが家庭や地域の絆を再確認し、社会の一員として互いの人権を尊重し合い繋がりを深めることが大切だとお話しされました。ご講演の最後に「手紙～親愛なる子どもたちへ～」という年老いた親が自分の子供へ向けたメッセージを紹介されました。とても心に深く響き、感銘を受けました。

社会教育研修会（合同部会B）　演題　高齢者が安心・安全に暮らせる地域づくり

講師：mottoひょうご事務局長　栗木　剛 さん

合同部会Bは女性部会・社会教育部会・宗教部会員の研修会です。
「高齢者が安心・安全に暮らせる地域づくり」にできることは何かについて、栗木さんにご講演頂きました。栗木さんは、とにかく声が大きくて、動き回り、気分転換を何回も入れる漫談調の研修会でした。お隣の方とのおしゃべりタイムがあり、和やかにそして笑いが起こる場面が多くありました。

「皆さん、最近脳の具合はどうですか?」との質問に「あかんな～物忘れがひどいなぁ～」「人の名前が思い出せないなぁ～」と部会員さんから返答。「それは身体の老化と同じで脳も老化しているそうですよ。認知症ではなくただの老化なので、これ以上悪化しないように脳のトレーニングをすることが大事だそうですよ。とにかく家庭の中でも地域の中でも人と出会って話をすることが脳トレになります。」と話されました。

ついつい高齢者に対しては過保護になりがちですが、例えば、ものを頼んでそれが出来たらありがとうと感謝してすごいねと褒めてあげる。そうするとまだできるという自信にもなるし脳トレにもなります。それから栗木さん自身のおばあさんの介護の話もされました。30年以上前になるそうですが、下宿屋をされてとても元気だったおばあさんが晩年1カ月ほど入院された時に、静かな病室に閉じ込められていたせいか、脳があっという間に衰えて退院された時には栗木さんのことも分からなくなってしまったそうです。にぎやかな家族の中で生活されていたおばあさんが病室で寂しかったのではと後悔されたそうです。やはり脳には刺激を与えなくてはいけなかったということです。今では認知症患者が増えているので声かけが大事なことは分かるのですが、当時はわからなかったそうです。そんなこともあり認知症の人のケアをするということ、相手の気持ちを知るということはいずれ自分のためにもなるということです。人権はそんなところにもあります。

最後に「昨日の晩御飯は何をたべましたか?」という質問をされました。夫婦で、家族で晩御飯を思い出そうと考える事が脳トレです。「お互いの人生を語り合うこと、脳トレすることを忘れずに皆さん頑張って生きて下さい」と研修会が終わりました。栗木さんのお話を胸にとめて、家族や地域の高齢者を見守っていけたらなと思いました。

人権教育研修会（社会教育分野　合同部会C）　演題　知って欲しい吃音のこと　吃音を持つ私たちのこと

講師：越賀　美穂さん（丹波市春日町在住）
足立　大地さん（丹波市氷上町在住）

○吃音について

吃音というと皆さんの中では、「ちょっとしゃべりにくい人」、「どもる人」、「あがり症かな」などというイメージで、大きな悩みではないと思われている方も多いのではないでしょうか。しかし、吃音を持つ者には見た目では分かりにくい辛さがあります。吃音の症状は、周りにはほとんど気づかれず生活に大きな支障がないように見える程度のものから、何を話しているのか分からず言葉を出すのに何分もかかるような重い症状までさまざまです。

吃音の発症は、ほとんどが2歳から5歳で、この年代の5%に吃音症状が見られますが、多くは自然治癒します。成長しても吃音が残る人は1%だと言われています。吃音の原因や治療法は明確にはされていませんが、緊張するから話せないのではない、また、生育環境が原因ではないことは言われています。最近では、少しでも症状を軽くする訓練が行われたり精神的な部分や周囲の環境にアプローチする動きも進んでおり、法的な根拠も少しずつ整備されています。

○勤める中で・・・

私が若い時働いていた施設で、夜勤明けの報告がうまくできず、朝礼が始まる前に、短時間でスムーズに伝えるようにと注意を受けて、夜勤の仕事より翌日の朝礼への不安が大きく、仕事に集中できず、体調を崩すこともありました。そのころは吃音についての情報が少なく、私も吃音のある自分自身を受け入れられず不安定な状態でした。今の職場では上司に吃音でつらい気持ちを伝えたところ「吃音のためにできにくいことではなくて、あなたのできることをしてもらえばいい」と言われ、周囲の理解もあり苦手なところはサポートしてもらいながら勤めています。

○私の伝えたいこと

私は幼少期に吃音を発症し、自然治癒することなく吃音とともに歩んできました。子どもの頃には辛く悲しいことも多くありました。毎日、近くの神社で本読みの練習をしましたが、教室では言葉が出ず、一行を読むのにも長い時間かかりました。恥ずかしくて苦しくて消えてしまいたい思いでしたが、先生や友だちに恵まれ、明るく成長することができました。中高時代は、思春期で思うように話せない自分に不安を感じていました。そんな自分の子ども時代を振り返るとき、今、吃音で悩んでいる子どもに対して吃音を持つ大人が堂々と生きている姿を見せる必要があるのではないかと思います。吃音を持つ子どもの中には周囲に理解されず、からかわれたり、孤独を感じたりして学校にいけないケースもあります。先生方の中にも、吃音に対する理解が不十分で、子どもを追い詰めてしまう場合もあります。まず、先生方に吃音のことを正しく理解してもらうことが大切だと思います。

講演の途中で3曲、シンガーソングライターの足立大地さんと一緒に歌ってくださいました。1曲目は、吃音を持つ人の気持ちが歌われたハンバートハンバートというミュージシャンの「ぼくのお日さま」、2曲目は、吃音のことを理解してもらおうと作ったオリジナル曲の「もう一人の僕」、3曲目は、「言葉に花が咲くように」でした。越賀さんの講演を聴きながら、言葉が出にくそうな時には「がんばれー!!」と心の中で叫んでいる参加者も多かったのではないでしょうか。越賀さんの思いがいっぱい詰まった素敵な時間でした

人権教育研修会（学校教育分野）　演題　道徳科の授業革命　～人権を基軸に～

講師：びわこ成蹊スポーツ大学客員教授　園田　雅春 さん

名著『学級革命』（小西健二郎著 1955）の中に、「一日の出発を説教で始めてはならない。ムシリとした顔で教室に入らないようにしています。にこにこと、せめて普通の顔で行くようにしています」というくだりがあります。また、「仲間意識のない教室、ボスがいたり、忘れられた子がいたりする教室、変な競争意識の強い教室、友だちの失敗をあざ笑う教室、そんな教室では魂の揺れ動くような学習はできません」と述べています。特に道徳で「魂が揺れ動く学習」は、ぎすぎすした雰囲気の教室ではできません。

自尊感情はどんな時代が来ようと、とても大切です。「俺なんか、私なんか、どうなってもいいし!」「いてもいなくてもいっしょやし!」「勉強、そんなのどうでもいい!」といった自己差別感情、つまり自尊感情を壊されている子どもにとって、あらゆる道徳性は空しいものなのです。

人権教育には「人権についての教育」と「人権としての教育」の2つの意味があります。特に、「人権としての教育」は、自分は大切にされているという「被尊感情」を豊かにいだくことができる学びを意味します。この被尊感情こそが、健全な自尊感情形成の源なのです。

「自分の人権が尊重された経験のない者は、他人の人権も尊重しない」（小熊英二）という言葉があります。他人の人権を平気で踏みにじる子どもに向かって、百のお説教は何の効き目もありません。むしろ、その子どもが人権の水をたっぷり吸収できる情況、つまり、「自分が大切にされている」という実感が持てる経験を蓄積できることこそが大変重要なのです。しかし、小熊のこの言葉には大例外があります。自分たちは人権をことごとく尊重されてこなかった。それなのに、自分たちだけではなく他者の人権をも尊重するのだと立ち上がった人たちがいます。その人々の思いは水平社宣言として結実しました。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」。自分たちの世の中だけに熱を、自分たちだけに光あれ、と宣してはいないのです。まさにユニバーサルな思想です。

人権を基軸とした「道徳科」の授業づくりは、答えを誘導し教え込むのではなく、答えが一つではない問いについて考え、対話を深める授業が求められます。いじめはいけないという一つのゴールに囲い込む授業ではなく、「なぜいじめはいけないのか」「なぜいじめは根絶しないのか」「どうすればいじめはなくなるのか」「これもいじめになるのか」などの問いを前に、子どもたちは経験を元にして互いに真剣に考え始めます。一方で、「いじめられる子にも悪い所がある」と思っている子どもが小学生の29.1%、中学生の35.5%というデータがあります。部落差別、障害者差別、外国人差別等々の重要人権課題についても問いを大切にしていきたいものです。問いについて考え、実直な対話を深め、自らの生き方を探っていく「道徳科」が求められます。だからこそ、自分のことを安心して語り合える学級・集団づくりが、いま根本的に大切なわけです。

丹波市人権ゆかりの地探訪

丹波市人権・同和教育協議会では、丹波市内の人権に関わる歴史資料をまとめた「人権ゆかりの地を訪ねて」（前編・後編）を発刊し、2013年度からは、この冊子に掲載されている現地を訪問し研修する「丹波市人権ゆかりの地探訪（フィールドワーク）」実施しています。

8月9日（金）に行った丹波市人権ゆかりの地探訪では、講師を丹波市人権・同和教育協議会会長の大西誠さんにお世話になり、57人の参加がありました。講義「氏子除外に見る歴史的背景」の後、高座神社と春日神社でフィールドワークを行いました。高座神社では、宮司さんより「高座神社略記」を参加者に配布いただき、それをもとに高座神社の歴史についてお話しいただきました。冷たい麦茶も用意していただいており、温かい心遣いに感謝の気持ちで一杯になりました。春日神社では、差別された人々の思いを今に伝える「高座神社遙拝所」も見学することができました。

参加者の感想を紹介します

●身近にある所での人権についてお話が聞けて良かった。差別をしている意識が無かった当時の人々の感覚をうかがい知れた。少し難しかったが、よい勉強になった。

●差別をされた側が明治6年に声をあげたこと、今の時代でも差別を受けた側が発信しなければならない現状は変わらないんだと感じた。実際にフィールドワークをすることで自ら考えることができた。人権について多くの人が考え差別をなくしていきたい。

●自分たちの住んでいる近くに差別の跡が残っているのだと知り、人権がより身近なものになった。教育現場でも伝えていきたい。

長年の知識と確かな技術と
自由な発想―
新しい業務スタイルを提案します。

防犯カメラ
防犯設計から施工まで
徹底サポート!
安心と安全のために

オフィス全体の
セキュリティ対策
○情報漏えい　○不正アクセス、
○なりすまし
○データ改ざん等ブロック
○迷惑メールブロック等
UTM（総合脅威管理アプライアンス）
Unified Threat Management

株式会社　ユニットシステム
株式会社 ユニットシステム
UnitSystem Corporation
http://www.unitsystem.jp/
E-mail：info@unitsystem.jp

日本の旅／世界の旅　予約受付中
あなたの旅を応援します!
団体旅行・グループ旅行・個人旅行などお気軽にご相談下さい
■JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行などの海外パック旅行/国内パック旅行の手配
■宿泊のみの手配や食事・観光施設の手配も行います
■貸切バス・航空券・JR券・フェリー券など各種乗車券の手配も行います
■格安海外航空券・海外のホテルの手配・パスポートの代理申請
など幅広いご要望にお応えいたします
◎お申込み・お問い合せ
関西旅行社　丹波市柏原町柏原（JR柏原駅構内）
■駐車場ご案内は駅前コータリー・または駅前市営駐車場（有料）を利用願います。ご利用ください
TEL (0795) 72-0325　FAX (0795) 72-2416
E-mail：kansai-ryoko@mxa.nkansai.ne.jp

丹波新聞は下記の店舗で
最新号を販売しております。
丹　波　市
● ファミリーマート柏原下小倉店
● 氷上パーキングエリア
● ひかみ四季菜館（犬岡）
● 丹波医療センター内　売店
丹波篠山市
● ファミリーマート篠山丹南店（東吹）
● 岡本病院内　売店（東吹）
● セブンイレブン篠山黒岡店（黒岡）
丹　波　新　聞
TEL.0795-72-0530　FAX.0795-72-1956
丹波新聞　検索

編集後記

世界に眼を向けると、国連総会は12月10日を人権デーと定め、世界の色々なところで「人権」について考える日になっています。11月30日・12月1日には、全国人権・同和教育研究大会が三重県で開催されました。丹波市でも、12月8日に「丹の里人権のつどい」が開催されました。次回、これらの内容についてもお伝えする予定です。